

五城目の街とともに、 これからも。

秋田中央交通株式会社 開業100周年

大正11年の開業以来、鉄道、バスなど、地域住民の生活の足として町民に広く利用され、本年で100周年を迎えた秋田中央交通株式会社。五城目の街とともに歩んできたその歴史を振り返ります。



大正11年に運行を開始した「五城目軌道」。昭和44年までの約半世紀にわたり、地域住民の生活の足として親しまれました。

時代とともに形を変え
地域の足として生活を支える

秋田中央交通の前身となる五城目軌道株式会社は、大正10年に設立され、同11年から五城目軌道線の運行を開始。東五城目駅（後に五城目駅へと改称・現在の五城目バスターミナル）から奥羽本線五城目駅（後に一日市→八郎潟・現在のJR八郎潟駅）まで、3・8キロの道のりを、1日7往復、所要時間20分で結び、約半世紀にわたり、地域住民の足として広く親しまれ、地域産業、文化の発展に寄与されました。

五城目軌道の運行最終日となった昭和44年7月10日には、記念行事として「軌道廃止記念式典」や「軌道をしのぶ会」を実施。五城目駅に詰めかけた数千人が見送る中、最終電

車が八郎潟駅へと向けて出発し、長い歴史に幕を閉じました。

秋田中央交通はその後、鉄道事業からバス事業へと一本化しながらも、大正、昭和、平成、令和と時代が移り変わる中で、どの時代においても、地域に根差した公共交通の運行により私たちの生活を支えています。

より便利で
使いやすい公共交通網に

町には、秋田中央交通が運行する路線バス「五城目線」をはじめ、「広域マイタウンバス」、「乗合タクシー」などの公共交通があります。

今後も、地域の皆さまのご意見を取り入れながら、より便利で使いやすい公共交通網の構築を目指していきます。

■秋田中央交通株式会社 100年のあゆみ（町関連部分）

年	できごと
大正10年	五城目・八郎潟を結ぶ鉄道を運営する「五城目軌道株式会社」として設立。
大正11年	営業開始（開業）。
昭和2年	五城目・八郎潟間で一般乗合自動車業を開始。
昭和18年	バス事業統合通達により他7業者と統合。秋田中央交通株式会社として営業を開始する。
昭和27年	五城目・秋田間で五城目線バスの直通運転を開始。
昭和44年	軌道事業を廃止。同社主催の記念式典のほか、町主催の「軌道をしのぶ会」が行われる。
昭和54年	五城目バスターミナルを新築。
昭和58年	秋田・五城目間で特急かもしか号の運行を開始。
平成16年	秋田中央トランスポート㈱を設立。以後五城目営業所の業務を同社に委託。
令和4年	開業100周年を迎える。



1 五城目軌道の車両は、廃止後に旧五城目小敷地内に展示されました。

2・3 五城目駅（現在の五城目バスターミナル）の構内とホームの様子。町内の名所などが記された案内板が、ホームに設置されました。4 昭和44年7月10日に行われた五城目軌道の「終発式」。数千人が五城目駅へ詰めかけ、最終電車を見送りました。

5・6 同社誕生の地の本町に所在する五城目営業所は昭和3年9月に開設。併設のバスターミナルを発着する五城目線が、秋田駅西口までの道りを結びます。

100年の歩みは、皆さまとの歩みでした。

秋田中央交通の前身である鉄道事業者「五城目軌道」が、大正11年4月21日、「奥羽本線五城目駅（現在のJR八郎潟駅）から東五城目駅（現在の五城目バスターミナル）」まで3.8キロの区間を、1日7往復、所要時間20分、運賃19銭で開業して、本年で100周年を迎えることができました。

大正、昭和、平成、令和と、時代の変遷のなかで、鉄道事業からバス事業へ姿を変えて今日に至りましたが、いつの時

でも私たちは、秋田で暮らす皆さまの「生活の足」として、一日一日を実直に歩んでまいりました。この長い年月を積み重ねられましたのも、ご利用いただいているお客様あってこそと心より深く感謝申し上げます。

地域に根差した公共交通機関として、100年先を見据えて。

私たちはこれからも、皆さまと共に歩み続けます。



秋田中央交通株式会社
代表取締役社長
渡邊 綱平さん